

保育おおさか

平成22年3月1日 第415号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
(大阪府保育協議会)

☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426

最低基準・一般財源化・幼保一体化

来年度以降も注視が必要

新たな保育制度をめぐり、昨年末から保育所最低基準の見直しや一般財源化、幼保一体化の問題が浮上してきました。これらの問題は今年度、一定の決着をみたものがあるものの、その動向には来年度以降も注視が必要です。

以下、昨年からこれまでの動きを振り返り、今後の動向をまとめてみました。

保育所最低基準

一括法を今国会に

保育所最低基準については、12月15日に閣議決定された「地方分権改革推進計画」で最低基準を地方自治体の条例に委ねることとなりました。しかし、保育士の配置基準や保育室の面積基準、保育の内容、調理室などは「従うべき基準」として国が示す基準以下には設定できないことになっています。

ただ、その他の設備や運営に関する基準は「参酌すべき基準」とされ、自治体に一定の裁量が与えられ、また、東京など一部の都市部に限り、待機児童解消までの一時的措置として保育室などの面積基準は「標準」とされ、条件を満たせば弾力化できる裁量が自治体に認められました。

今後、必要な法整備をまとめた一括法を今通常国会に提出することになり、法整備の中で「東京等の一部の区域」はどうか、「一時的措置」はいつまでかなどの詳細が決められることとなります。

一般財源化

再浮上の可能性も

子ども手当の財源をめぐり12月4日、全額国費で負担する代わりに保育所運営費の一般財源化が提案されました。これに対し、一般財源化による地域間格差が生じること

などの懸念から、全国保育協議会、全国私立保育園連盟、日本保育協会は陳情や緊急集会を通じて反対の声をあげてきました。

その後、子ども手当は「所要額を平成22年度予算に計上」となり、見送られました。しかし、平成23年度以降の子ども手当の取り扱いに関しては、幼保一体化などを含む新たな次世代育成支援対策を進める「子ども・子育て新システム検討会議」と地域主権を進める「地域主権戦略会議」のそれぞれ検討結果を踏まえ、平成23年度予算編成過程で再度、一般財源化問題が浮上する可能性があります。

幼保一体化

23年度に法案化へ

「明日の安心と成長のための緊急経済対策」が12月8日にまとまりましたが、その中の「制度・規制改革」項目として

「幼保一体化を含めた保育分野の制度・規制改革」が盛り込まれました。

また、12月30日には「幼保一体化を含む各種制度・規制の見直しによる多様な事業主体の参入」を盛り込んだ「新成長戦略」輝きのある日本へ」が閣議決定されました。

この「新成長戦略」には①幼保一体化の推進②利用者本位の保育制度に向けた抜本的な改革③多様な事業主体の参入促進などによって保育の多様化と量的拡大を図り、2020年までに待機児童を解消すると記載されています。これは「緊急経済対策」とリンクする部分があります。

今後5年間の子育て支援策や目標値をまとめた「子ども・子育てビジョン」(1月29日閣議決定)でも幼保一体化が示されており、今年前半を目途に検討が進められ、平成23年度に法案化される予定です。

以上の内容について、現時点ではまだまだ不透明な状態ですが、保育の分野に大きな影響を与えることになりそうです。



「かむ」を辞書でひくと、①咬む②噛む③嚼むーがあります。音はどれも同じで、①の「咬む」は顎の力で咬み砕く、②の「噛む」は上下の歯で噛み切る、③は臼のように搗りつぶすというイメージ。少々難解ですが、そのうえに「咀嚼する」という言葉もあり、これは①②③の総合的な動きでしょう。そして、この言葉は食のみならず言語活動にも使用されていて奥の深い言葉です。

最近の子どもたちは、やわらかい食材や食習慣の変化から咀嚼力不足で、永久歯28本が収まりきらない小さくてスマートな顎と顔立ちが増え、生命力の低下にもつながりそうな心配です。

また、絵文字や単純な言語で、その浅い会話が主流となり、対人力低下も懸念されるところです。

子どもたちには食事の咀嚼力と言語咀嚼力双方の向上を図り、より良い人生の基礎を築いてくれることを願っています。

人と人をつなぐ“龍馬精神”に学ぶ

—高知の県立坂本龍馬記念館で園長研修会

保育部会の園長研修会を1月26、27日の2日間、高知県高知市で開催しました。

初日は、桂浜に面した「高知県立坂本龍馬記念館」で研修・見学を行いました。記念館は総ガラス張り、太平洋の海原を180度見渡すことができる眺望です。学芸員から幕末の志士、坂本龍馬が生きた時代背景や人間性、どのような功績のある人物なのかについて説明を受けました。



日本の偉人をバックに

坂本龍馬は1835年(天保6年)に高知城下、郷土坂本八平の次男として誕生しましたが、高知における武家社会での差別的な状況下で脱藩。その後、勝海舟に弟子入りをしてから、1867年(慶応3年)に京都「近江屋」の2階で刺客に襲われ闘死するまでの5年間に「海軍塾創設」、長崎での「亀山社中」結成、当時不仲の薩摩と長州に手を結ばせた「薩長同盟」、さらに武力倒幕を避け大政奉還路線で幕府政治を終わらせるなど数々の功績を残しています。

人と人とのつながりを大切に、また、人と人をつなぐことを得意とした人物であったと聞き、その精神の大切さを改めて思い知らされました。没後150年近く経った現在でも、龍馬なら自分をわかってくれるという思いに駆られ、桂浜に建つ坂本龍馬像に会いに来る若者が絶えないのは、そのような龍馬の生きざまに魅了されているからなのかもしれません。

龍馬の功績の一つに、自家「才谷屋」の血筋からか商才があり、倒幕へ

向けての資金作りに奔走し成功させている姿が思い浮かびます。何事をするにも資金を必要とするのは現代も変わらず、福祉の社会でも例外ではありません。その意味でも参考となる部分を感じ取りました。



学芸員の話に耳を傾ける参加者たち

龍馬の魅力を今に伝える記念館の展示物には、姉乙女宛の手紙など何通もの手紙が現存、かわいらしい一面も垣間見ることができました。

2日目は高知城を見学しました。石段を上りつめた上に建つ天守閣と本丸正殿は重要文化財に指定され、歴史的な風格にあふれていました。天守閣は6階建て(高さ18・5メートル)。階段は非常に急で登りづらいです。

「保育園における地域貢献事業」について、事例発表やパネルディスカッションなどが2月14日と同23日にそれぞれ行われました。

事例発表と意見交換会(2月14日)は、シテイプラザ大阪で開催の『先進的福祉活動セミナー』で行われました(5面に記事)。

ドーンセンターで開かれた「福祉と共生のまちづくりフォーラム」(2月23日、主催・大阪府社協、福祉と共生のまちづくり推進会議)では、地域で取り組む子育て支援のまちづくりをテーマにパネルディ

が、いちばん上からは城下を一望、藩主山内一豊の気分をほんの少し味わえたような気がしました。

その後、香美市立「やなせたかし記念館」と「土佐闘犬センター」の二手に分かれそれぞれ見学。「やなせたかし記念館」(アンパンマンミュージアムと絵本館)は、子どもたちが大好きなアン

パンマンの世界を存分に楽しめ、ワクワクするような絵や絵本の世界が広がっていました。

● 地域貢献事業推進委員会 ●

事業の周知を図る 様々なPR展開

今後とも様々な機会を通じてPRをしていきたいと考えています。

スカッシュが行われ、パネラーとして地域貢献事業推進委員会から篠崎直人委員(保育園平和の園)が参加、「地域貢献事業」の必要性や内容、地域のセーフティネットとしての保育園の可能性について報告されました。

「人と人とのつながり」の大切さを感じ、歴史に触れることで先人たちの活躍の中に現代の私たちがすべきことを考える機会を得られた充実した研修会となりました。

(編集委員 M・K)

茨木市 こどもの園敬愛保育園

「E〜たいむ」など個性伸ばすプログラム
一時保育や病後児保育で働く保護者支援

こどもの園敬愛保育園はJR茨木駅のすぐ近く、エキスポロード沿いに立地し、ピエロのキャラクターが目印。開園5年目、定員120名の保育園です。

仏の教えに基づく「心を育てる保育」を実践。

押し付けではなく自分の力で気づく保育、一人ひとりの成長を大切にしたい保育、よい保育はよりよい環境から―を保育方針とされています。

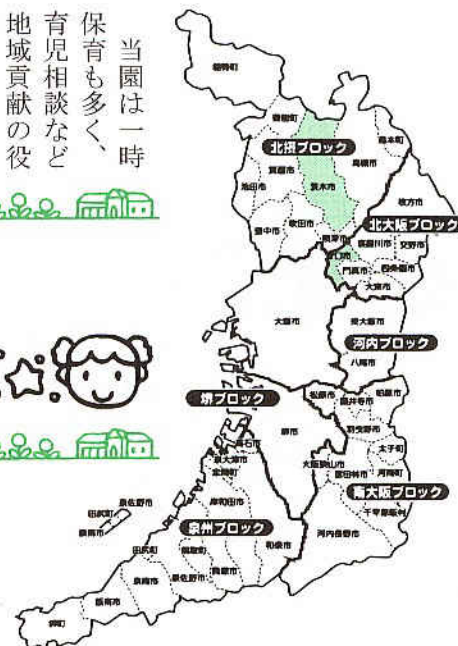
園児たちの成長を考え、花まつり、花見遠足、収穫遠足（いちご狩りやみかん狩り）、移動動物園、宿泊保育、雪遊びなど四季の変化や自然に触れることを大事にされています。

また、常に生き生きとした園生活を過ごせる経験とは何か？を考え、絵画、造形遊び、リズム遊び、かず、ことば遊び、ハートブレイ（心の遊び）、体育遊びなど、楽しみながら個性を伸ばすプログラムも多くみられました。

英語講師とE〜たいむ

今年度から、国際コミュニケーションの大切さを伝えるため「E〜たいむ（Englishで遊ぼう!）」を導入。歌や遊びを通して、楽しく自然に英語が身につく取り組みがされています。保育士の資質向上に向けた研修も数多く、勉強の日々だそうです。

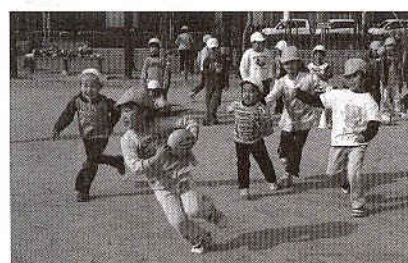
当園は一時保育も多く、育児相談など地域貢献の役目も担われています。茨木市初の病後児保育室を併設。市内の1歳児クラス以上の回復期に向かっている子どもたちを預かり、働く保護者の支援も行っていました。保護者とのコミュニケーションを大切に、子どもたちの笑顔があふれる環境を保てるよう努力がされている保育園でした。（編集委員 M・K）



保育園を たずねて 400

たちばな東保育園はこの春、公立民営化6年目を迎えて、設立当初の園児も一巡の園児も一巡の民営移管に際し「運営内容を急に変えたい」との要望がある中、少しずつ園の独自性を打ち出しているところだ。

守口市の東端（寝屋川市との境）にあり、定員105人。保育目標に「感性豊かな子ども、意欲をもつ子ども、たくましい身体づくり、自分で考えて行動できる子ども」を掲げられています。



走る！走る！

最も特徴的だったのは「子育てカウンセリング」の実施でした。臨床心理士による毎月1回の育児相談が行われています。在園の保護者だけでなく、地域の子育て家庭にも開放しており、地域支援の一つと言えます。同時に、在園の保護者に対して、専門的な立場からアドバイスが出来ることは素晴らしいと思います。（編集委員 J・F）

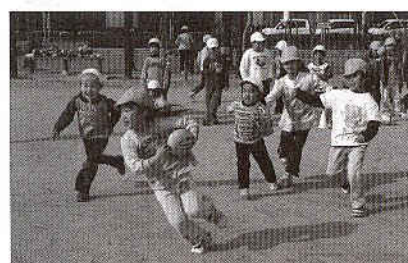
守口市 たちばな東保育園

5歳児にラグビー指導でルール意識育てる
「子育てカウンセリング」実施し地域支援

保育では、0〜2歳児は「集団より個」「教育より養護」に比重を置かれています。このため、乳児には育児担当制を採用、園児それぞれの生活リズムに合わせるよう配慮されています。

3〜5歳児は「集団でのダイナミクスを生かす機会を多く持つ」のが保育方針で、その一つに、5歳児には「ラグビー」を取り入れていました。コーチは体育講師で、幼児クラスの運動遊びとラグビーを隔週で指導。その目的は―

「ルールを守る」
「一人は皆の為に、皆は一人の為に」という協働の気持ち育てる
「身体を動かす事で気持ちを開放させる」
ラグビーはボールの弾みを読みにくく、誰にでもボールを持つチャンスがあるのも良い点。少し



堺市 ビクトリー保育園

食事面の工夫で苦手な野菜OK、礼儀作法も就学前教育で学習意欲育てる4、5歳児

ビクトリー保育園は平成14年4月、定員60名で堺市に開園した保育園です。園舎は「明るい保育園」という園のキャッチフレーズ通りのピンクの外壁です。

開園当初は子どもたちが日々生きた喜び、大きくなる喜びを感じてほしいとの願いを込めて、食事面に力を入れたそうです。特に青野菜が苦手な子どもたちには、味付けはもろもろ、やわらかく煮たり、細かく切つて和え物にしたり、好んで食べられるように工夫。また、夏野菜のトマ



大きなおいも収穫できた!!

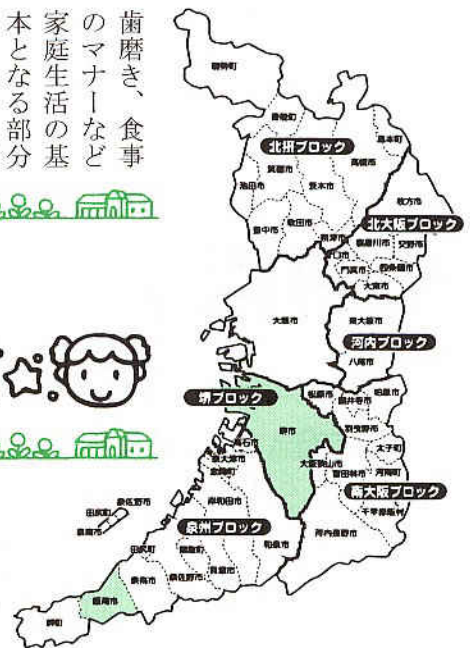
ト、キュウリ、ピーマン、ナスなどを育て、食べ物への愛着心をもってもらい取り組みも。今では子どもたちは煮物を好み、「今日の給食はなに?」「いい匂いがしてきた!」と関心を持つようになりました。

園全体で話し合い取り組みだことの一つに、一人ひとりの子どもに話しかける時、「○○ちゃん」と名前を呼んで目を見て話すこと、朝夕に毎日座つて絵本を読むなど読み聞かせを行うことです。また、子どもたちの思いを丁寧に「聴く」ことを心がけておられるため、にぎやかに「先生あのね、聞いてきて」と話す子どもたち。順番に聞かからね、と保育士が子どもたちの話に耳を傾けることで、子どもたちも積極的に話しかける姿がうかがえました。

歯磨き、食事のマナーなど家庭生活の基本となる部分をきちんと身に付けることを大切にされています。

4・5歳児クラスになると、お茶教室を取り入れ、茶道を通じ日常生活の礼儀作法を学び、就学前教育として英会話や文字、体育指導、音楽教育の充実にも取り組み、小学校への学習意欲も培われているようです。

(編集委員 K・M)



阪南市 保育園アルン西鳥取夢学舎

浜風吹く園庭、遊びを工夫し裸足でのびのび地域との交流盛ん、保護者には保育体験

広がっています。園内は開放感、清潔感に溢れ、心地よい浜風が吹きぬける園庭は芝生で覆われています。

気候のいい時期は、乳児クラスから幼児クラスまでみんな裸足で遊ぶ。ごきごき敷き、ひなたぼっこや寝転がっているだけで子どもたちの表情は満足気だと園長先生。固定遊具などでの遊びに比べ、自分たちで遊びを工夫し、相談しながら長時間でも飽きずに過ごせるようになったそうです。

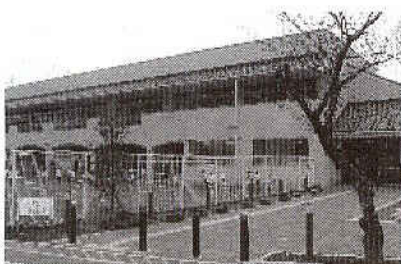
保育理念に「健康・愛・尊重」を掲げ、「心身ともに健康である人を育てたい」がモットー。限られた生活環境の中でもさまざまな経験や体験ができるよう、米袋でさつま芋の苗を育てたり、プランターで野菜作りなど工夫されています。

地域の方からは、れんげ畑やじゃがいも掘りに招待してもらったり、「やぐら曳き」といった伝統行事に参加するなど

園児たちには貴重な体験の場となっています。また、人との関わり、仲間とともに育ちあう姿、個々の成長や援助も含めて、保護者の方にも実感してもらうため、全クラス、保育体験を実施。実際に「お母さん・お父さん先生」として半日、保育の現場に入る機会も設けられていました。

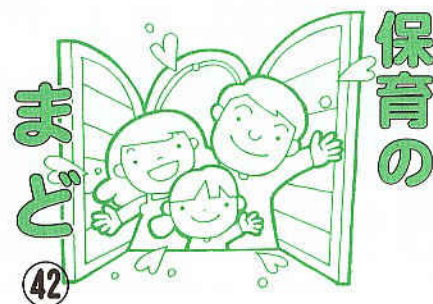
公立時代から培われた「おらが村さの保育園」の伝統を大切に、一時預かりや園庭開放など子育て支援の選択肢の拡大に努め、地域のために役立つ園を目指されています。

(編集委員 N・N)



子どもたちに人気の芝生の園庭

保育園を たずねて 401



保育の

たんぽぽ安威保育園 — 茨木市

シリーズ **園児の体力づくり**

保育に6人制サッカー取り入れ
「頭を使い足を扱う」成長に欠かせないファクター



サッカーボールと触れ合う園児

茨木市の「たんぽぽ安威保育園」では、30年ほど前から保育にサッカーを取り入れていきます。いうまでもなく体力づくりの一環です。もともとサッカーといっても、Jリーグなど一般のサッカーの11人制とは違い、保育園では6人制です。

理由は簡単、人数が少ないほど一人の子どものボールに触る回数、時間

は増えるからです。ボールに触れないと面白くありません。そこで子ども一人ひとりができるだけのボールを扱えるよう6人設定にしました。少人数であれば、定員規模が小さな保育園でもサッカーの試合が可能です。

今ではプロサッカーのJリーグも人気があり、日本代表がW杯に4大会連続で出場できる時代になりましたが、保育園でサッカーを始めた当初は、まだまだ普及しておらず、サッカーのサの字もわからない子どもたちがサッ



上手に蹴れるかな？

カーをするわけですから、最初はどちらのゴールにシュートするのもかわからず、手でボールを持ち走り出してしまいう子どももいました。

しかし、継続していくうちにルールを理解し始め、サッカーの試合らしくなってきました。

子どもにとってサッカーの素晴らしいところは、なんととっても足でボールを扱うところでしょう。手は生活をしていくうえで常に使い、様々な動きができますが、足は普段歩くことや走ることぐらいにしか使っていない足でボールを思うままに扱うのは意外に難しい。頭で意識しないと扱えません。「頭を使う」、これは子どもの成長にとって大事なファクターではないでしょうか。

また、サッカーには「走る・飛ぶ・転がる」という運動の三大要素も含まれています。

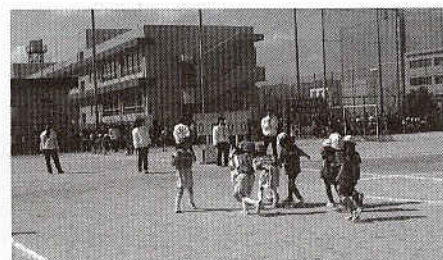
年々低下しているといわれる子どもの運動能力。低年齢からの運動は大変重要です。サッカーを楽しむことで、運動機能の発達はもとより、神経系の成長も期待できると思っ

うちにルールを理解し始め、サッカーの試合らしくなってきました。

子どもにとってサッカーの素晴らしいところは、なんととっても足でボールを扱うところでしょう。手は生活をしていくうえで常に使い、様々な動きができますが、足は普段歩くことや走ることぐらいにしか使っていない足でボールを思うままに扱うのは意外に難しい。頭で意識しないと扱えません。「頭を使う」、これは子どもの成長にとって大事なファクターではないでしょうか。

また、サッカーには「走る・飛ぶ・転がる」という運動の三大要素も含まれています。

年々低下しているといわれる子どもの運動能力。低年齢からの運動は大変重要です。サッカーを楽しむことで、運動機能の発達はもとより、神経系の成長も期待できると思っ



普段の練習の成果を発揮！

「大阪発の地域貢献事業を全国に発信したい」 おおだ保育園の馬場園長が強調

— 先進的福祉活動セミナー —



馬場耕一郎園長

「先進的福祉活動セミナー」（主催：大阪府、大阪府社協）が2月14日、シテイプラザ大阪で開催されました。同セミナーは社会福祉法人の地域貢献活動を広く知ってもらうことや福祉、介護職場への理解を深め「イメーリアップ」を図るのが目的。

セミナーでは、社会福祉法人が手がける先進的な取り組み事業について事例発表や意見交換が行われました。（セミナー

の詳細は「福祉おおさか」3月号に掲載）。

5事業のうち特に「保育園における地域貢献事業」についての事例発表では、おおだ保育園の馬場耕一郎園長から、事業がスタートした経緯やこれまでの取り組みなどを中心に発表され、「地域の中のセーフティネット」として保育園が担えるのではないかと。大阪発の事業として全国に発信していきたい」と強調されました。

意見交換会では、パネルとして泉佐野ルーテル保育園の保育士、池田奈々子さんと中出裕子さんが意見を発表。池田さんは「相談者に安心感を

ています。

茨木市では27年前から、市内私立保育園のサッカー大会が行われています。この試合では子どもたちが理解しやすいルールが工夫されています。大人たちの判断よりも、子どもたちが自身が審判もしながら、試合を進めていくことができればと期待を寄せています。子どもらしいサッカーができる環境作りが、私たちの役

実感していただけることに喜びを感じる。実践を通して自分の経験として活かせる」と地域貢献事業のやりがいについて述べられました。

また、中出さんからは「核家族化が進んでいる中で、保育園が地域に対して何かしなければいけない」ということを考えて取り組んでいる」と活動を進めるにあたっての姿勢などについて報告されました。



池田奈々子さん



中出裕子さん

割だと考えています。

たんぽぽ安威保育園では2年前の園舎建て替えに伴い、園庭に天然芝を植えました。青々とした芝生の上で、子どもたちは毎日のように裸足でボールを蹴っています。

サッカーを通じた様々な経験が、子どもたちを大きく成長させてくれることを願っています。

（たんぽぽ安威保育園 T・M）

ブロックだより

北大阪

在宅子育て家庭との自然な関わり重要

―子育て支援研修会で枚方市全公私立保育所の実践報告

北大阪ブロック会第8回子育て支援研修会が1月25日、守口ロイヤルパインズホテルで111名

の参加者が集い開催されました。

まずはじめに、枚方市私立保育連絡協議会から、枚方市全公私立保育所(園)で取り組んでいる「保育所(園)ふれあい体験」や「枚方版ブックスタート」事業など、行政との協力体制の中で進められている地域に即した子育て支援の実践報告

が行われました。

その後、神戸松蔭女子学院大学の寺見陽子教授が実績報告を踏まえたこれからの子育て支援について講演されました。

寺見教授は、在宅子育て家庭には、枚方市の各園で実践されているような自然な関わり(会話や育児相談など)が重要と指摘、これからも各地域にある保育園・保育士が、バックサポーター的な存在としての役割を担ってほしいと強調されました。



実績報告も含めた寺見教授の講義

河内

保護者対応・援助ストレスのポイント学ぶ

―理事長・園長研修会

『保護者対応のポイントと、援助のストレスについて』をテーマに、河内ブロック理事長・園長研修会が2月16日、シェラトン都ホテルで、45ヶ園47人が出席し開かれました。

「一度とその店に行かない」という理由があるとすれば、それは感情に反していることになりす。このように日ごろ自分の感情をごまかして生活することに慣れた大人は、素直な感情の確認が大切だということに気付かされました。

また、ストレス反応には3種類あり、自分自身のストレス反応はどのタイプかを自覚することによって解消方法も見出せ、健康を害さずにストレスに強い生き方ができると津村氏は締めくくられました。

(編集委員 Y・N)

弥生3月。桃の節句は桃の花の咲く頃になるため「桃の節句」と言われた。明治6年から太陽暦に合わせ3月3日となった。桃の花は泉州地方では桜の後に咲くから、4月の中旬に行われていたモノらしい。桜の色より一段と濃い桃の花の咲く景色はまさに桃源郷の言葉通り。岸和田の山直(やまだい)の里に包近(かねちか)という桃源郷があり、子どもの頃に戯れたことを思い出す。

3月14日のホワイトデーは、日本特有!人にモノをいただくとお返しをする日本人の心から出てきたのでしょう。名付けたのはキャンデー屋の業界なぞ。小生も職員から

「旬」

桃源郷を思ふ桃の花の咲く頃
三陸育ちのメカブで
トロロご飯、最高です!

ずかしい。周りの監督やらは何も言わなかったのか? 昨今、言われている品格の問題。自分さえよければどんな格好しても良いものではない。私は、若い方の茶髪はお断りしている。子どもや保護者から「先生」と呼ばれるにふさわしい服装は大切であります。元々ジパングはアメリカの砂金掘りの作業着。今や破いたジーパンなどファッション化しているが、研修会に参加する服装ではないと考えている。園の

名を背負つての参加ですから。園長先生方、貴方が笑われないように、気をつけましょうぞ! さて、期末! 決算・事業計画(スマイルサポーター)による地域貢献を忘(れずに)、年間行事予定・人事・新入園児受け入れ・卒園。今年から保育要録も。理事会に出す書類はできてますか? 春は、貝類が旨い。若芽も。中でも芽カブ! 40年来の東北の友人に「春のたより」として、みかんを送ると1週間後には、三陸に育つ若芽・芽カブが。この芽カブをトロロにしてご飯にかけたら最高! 旨い! ご飯、もう一杯! (N・H)

発行所
大阪市中央区中寺1丁目1-54
大阪府社会福祉協議会
保育部 会
大阪府保育協議会
TEL (06) 6762-9001
発行人 男 正
永 野 治
編 集 人
齊 藤 和

